

I 平成30年度 事業計画

1. 基本方針

日頃は、当協会の活動にご理解とご支援を賜りましてありがとうございます。私は長年にわたり、横浜市総合リハビリテーションセンターを中心に障がい児者や高齢者の医学的リハビリテーションを生業としてきました。20年ほど前、センター長になりたての頃に介助犬と出会い、身体障害者補助犬法の制定後は、特に犬好きというわけでもないのですが、介助犬・聴導犬の認定審査に関わってきました。



理事長 伊藤 利之

2006年にリハセンターを定年退職しましたが、現在も顧問として、また非常勤のリハ医として、横浜と東京の2か所で地域リハビリテーションの新たな仕組み作りに挑戦しています。この度は、縁あって日本介助犬協会の理事長を仰せつかりましたので、今後は立場を変えて、認定審査を受ける側から協会運営に関わらせていただきたいと思います。

障がい児者を取り巻く状況は、現実的には厳しいことに変わりありませんが、一方で、福祉用具やロボット技術の開発、自立の概念や社会参加の促進、関係者の増加やノーマライゼーションの進化など、パラリンピックを前にして期待できる変化もみられます。その中であって、介助犬の育成事業に主体的に取り組んでみると、またこれまでとは違った気付きや感動があり、私個人としても大変興味深い経験をさせてもらっています。

障がい者が犬に何を求め、それに対して当協会がどのような役割を果たせるのかを真摯にかつ柔軟に考え、支援者の思いに応えられるような協会へと発展させるべく尽力したいと思います。

今更言うまでもないことですが、2018年の今年は戌年です。どうぞ皆様には、これまでも増してご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

理事長 伊藤 利之



(動物介在活動中のマーラ)

介助犬フェスタ 2018

日時： 平成30年5月19日(土) 10:00～16:00

場所： 愛・地球博記念公園(エコロパーク)地球市民交流センター
(愛知県長久手市)

2. 取組事項

1. 介助犬訓練

リハビリテーション専門職と連携を図り、介助犬希望者に対して個々の障がいにあった介助犬を提供する。介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～に於ける体験・合同訓練および在宅訓練の指導を行う。

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬を育成し、3～5名の肢体不自由者(新規2～5名、代替え0～1名)に対し介助犬の貸与を実施する。

(2) 犬の飼育及び訓練

① 32頭の新規候補犬に対し、評価及び訓練を実施する。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して飼育指導を行う。

(3) 繁殖、パピー、候補犬としての成犬の導入

① 繁殖犬メス5頭から25～30頭のパピーを確保する。繁殖犬オス1頭の子返しとして1～6頭のパピーを確保する。また、国内外の補助犬育成団体より1～5頭のパピー及び成犬を購入する。

② オーストラリア、スウェーデン、ハワイ等の補助犬育成事業者から情報収集し、候補犬(成犬)導入のため訪問する。

(4) 介助犬使用者に対する継続指導

① 介助犬使用者23名に対し、継続指導を行う。

② 「使用者の集い」を12月15日(土)、16日(日)(予定)に東京23区エリアにて開催、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた介助犬使用者等の動線調査を実施する。使用者による引退式の企画、協会による開催を実施する。

(5) 介助犬使用者に対する就労・継続支援

介助犬使用者の就労希望に対し、就労支援機関と連携を取りながら個々に合わせた就労・継続支援を行う。

2. 人材育成・研修

訓練部職員の技術向上、合同訓練体制の確立に取り組む。また、外部研修等へ職員を派遣する。

(1) 訓練技術向上

飼育管理担当者、パピー担当者等のすべての訓練部職員がOJTにより犬のハンドリング技術の向上を目指す。また、目指すゴールの明確化、訓練犬の評価方法の共有化を図り、訓練技術向上に努める。

① 訓練士の育成

訓練担当者へのOJTの他、合同訓練の見学の機会を与え、目指すゴールの共有化を図る。

② 介助犬訓練士研修生の養成

第13期研修生2名に対し、介助犬の育成・普及活動に関わる人材として養成する。また第14期研修生を募集する。

(2) 研修関連

- ① リハビリテーション関連、犬関連に関する研修会へ職員を派遣する。
- ② パピープログラムに関する研修へ職員を派遣する。

3. 相談・指導助言

介助犬希望者がより正確な情報を得られるように、体験会・相談会、体験入所等のプログラムの充実を図る。

(1) 介助犬希望者への更生相談

- ① 介助犬に関心のある障がい者を対象に、毎月の見学会に合わせて相談会を実施する。
その他体験会(相談会同時開催)を年2回開催、見学会と体験会および体験入所の同時開催。
- ② 半年から1年後に合同訓練を開始する候補者を対象に、春と秋を目途に体験入所を実施する。その他必要に応じて実施する。

4. 補助犬関係団体協力

良質な介助犬を育成するため、補助犬関係団体と訓練犬確保、繁殖情報の交換や繁殖協力関係の強化を図る。また、介助犬及び身体障害者補助犬法の認知度向上のため、情報機関等との連携を強化する。

(1) 補助犬育成団体との連携強化

日本盲導犬協会、北海道盲導犬協会、中部盲導犬協会、関西盲導犬協会、九州盲導犬協会、東日本盲導犬協会、兵庫介助犬協会等との繁殖、子犬の導入、キャリアチェンジ犬の導入、研修先としての協力関係を強化する。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

諸外国の補助犬団体と、介助犬の育成や繁殖事業に関する交流を充実させる。

- ① ADI(Assistance Dog International)の認定申請を行う。
- ② Kyno-Logisch(スウェーデンの盲導犬育成事業者)、Assistance Dogs of Hawaii(ハワイ)と犬の導入についての情報交換を行う。
- ③ 日本身体障害者補助犬学会への協力
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて「補助犬受け入れ/車椅子受け入れセミナー」開催への協力をする。

5. 調査研究

障がい者が介助犬等との生活をより円滑に送るための研究調査を行う。

(1) 各学会への参加、演題登録

- ① 第11回日本身体障害者補助犬学会への参加、学会団体会員に加盟し一般演題発表を行う。
- ② 第55回日本リハビリテーション医学会学術大会にてワークショップを開催する。
- ③ 第21回日本福祉のまちづくり学会全国大会への演題登録

(2) リハ専門職等との補助具の開発

- ① 横浜市総合リハビリテーションセンター等のリハビリテーション工学士と介助犬使用に関する

る補助具の研究を行う。

② 愛知県立芸術大学デザイン科と利用者ニーズに合わせた補助具作成に係る相談・研究を行う。

(3) 肢体不自由者への更生相談

- ・ バリアフリー2018 : 4月19日(木)～21日(土) 開催 (インテックス大阪)
- ・ ウェルフェア 2018 : 5月17日(木)～19日(土) 開催 (ポートメッセ名古屋)
- ・ ヨコハマヒューマンテックナラト' 2018 : 7月20日(金)～21日(土) 開催 (パシフィコ横浜)
- ・ 国際福祉機器展 2018 : 10月10日(水)～12日(金) 開催 (国際展示場)

6. 地域公益活動

動物介在活動(AAA)・動物介在療法(AAT)への貢献

- (1) 動物介在療法として聖マリアンナ医科大学病院へ貸与した勤務犬についてハンドラー医師・看護師へのハンドリング指導を継続的に行う。また、代替え勤務犬の養成及び貸与を行う。
- (2) 障がい者、障がい児に対して、自宅で役立つキャリアチェンジ犬の譲渡を行う。
- (3) 多摩病院、箱根病院、野のすみれクリニックでのAAAの実施、その他長期療養患者、被虐待児童、社会適応障害児童等に対するAAA/AAT導入に対する検討、監修および実施協力
- (4) 障がい児向けの犬とのふれあい会等の開催
- (5) 家庭犬飼育の質の向上を目的に、犬飼育委託ボランティア、センターボランティア、キャリアチェンジ犬引き取りボランティアに対して4回の講習会を実施する。また、キャリアチェンジ犬引き取りボランティアに対しては交流会を行う。

7. 普及啓発

介助犬および補助犬法の認知度が低いという課題に対し、多くの人々に正しく理解いただくよう普及啓発活動を広く展開する。また、訓練犬受け入れについて交通機関、飲食店、店舗、ホテル等に交渉し、訓練犬受け入れについての理解を深める要請を広げる。

(1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 介助犬フェスタ 2018 の開催 5月19日(土)

介助犬への認知度向上および希望者・支援者の増加を目的として実施する。

② 地域に根ざしたイベントの開催

・介助犬総合訓練センター

一般見学会 : 原則毎月第2土曜日(5月、3月を除く)

子供向け見学会 : 7月26日(水)予定

オープンハウス : 3月2日(土)予定

団体見学受入れ等 : 年50件

・本部

介助犬夏休みイベント : 8月18日(土)予定

介助犬教室 : 7月29日(日)予定

③ はたらくワンワンランドの開催

「ガンバレ！介助犬！JA共済はたらくワンワンランド」を通じて、全国で障がい者を支える介助犬を紹介する福祉教育活動を展開する。

④ リハビリテーション専門職向けセミナー の開催

リハビリテーション専門職へ向け、介助犬の正確な情報を提供し、理解を深めていただく機会として第 55 回日本リハビリテーション医学会でワークショップを開催する。

⑤ イベント・講演会の受入れ

支援企業、小・中学校をはじめ各団体からイベント・講演会の依頼を受け、職員・PR 犬の派遣を行う。

(2) 介助犬デモンストレーター養成の実施

現在活動しているデモンストレーターの継続指導を行う。

(3) 普及啓発募金活動

本部およびセンター近郊で地元根付いた啓発を行うため月 1 回以上の募金活動を実施する。また、小学校・中学校・スカウト隊・慈善団体等主催の募金活動についても協力参加する。訓練犬のパブリック訓練と募金活動を兼ねるなど効率化を図る。

(4) 募金箱の設置

介助犬の認知度向上のため、新規設置店の拡大に取り組む。既に設置頂いている箇所に関しても継続的に設置頂ける様、取り組みを行っていく。特に医療機関への募金箱設置を重点項目に置く。

(5) PR犬の育成・訓練の実施

介助犬啓発活動に参加するPR犬の作業力維持、並びに広報部職員の技能向上のためのトレーニングレッスンを定期的実施する。訓練部と連携し、介助犬啓発活動に参加する新規PR犬を含めたPR犬の育成・訓練のため PR 犬ミーティングを定期的に行う。

(6) ボランティア募集・交流等

介助犬訓練・啓発に係るボランティアの募集を行う。各拠点にて年 2 回の交流会を実施する。街頭募金活動時等に犬のハンドリングが出来るボランティアの育成を行う。

(7) 賛助会員の新規入会促進と継続支援者の確保

会報やイベントを通して会員とのコミュニケーションを図る。法人会員については、定期的に訪問する。また、本部を中心に企業への積極的なアプローチを行い、支援企業を開拓する。

(8) 『ほじょ犬の日』5月22日(火)に向け、普及啓発イベント・講演会において積極的にPR活動を行う。

(9) 介助犬総合訓練センター開所 10 周年に向けて企画を立案し準備を開始する。

8. 広報活動

介助犬、補助犬、身体障害者補助犬法などについて、介助犬希望者・個人支援者・支援団体企業等、対象者別に必要な情報提供に努める。

(1) マスコミ対応

新聞やテレビ番組などのメディアに迅速に対応するため、最新の映像制作や写真撮影を行い提供していく。

(2) 広報物の作成

リーフレット・ポスター等広報物を作成し広く配布・掲示する。各企業の広報紙、機関誌などへ提供する写真の種類の充実を図る。

(3) 会報誌の発行・ホームページの制作

会報委員会を設置し魅力ある紙面づくりに取り組み、年4回各4700部発行する。
リニューアルしたホームページを頻繁に更新し、会員獲得やグッズ販売の促進を図る。

(4) ツイッター・フェイスブック・インスタグラム等のSNSの活用

ツイッター・フェイスブック・インスタグラム等の情報発信の充実を図る。また、社会貢献活動を支援・促進する取組みをインターネット上で展開する「ソーシャルグッド」を活用し、新たな支援者獲得を目指す。

(5) リハビリテーション専門関連学会、獣医療関連学会へのブース出展等

介助犬適応者に対する処方や紹介が出来るリハ専門職への理解を深め、希望者・利用者へのリハ支援の連携に不可欠である専門職への理解を深めるためにブース出展、デモンストレーション等の機会を得る。

【2018年度学会一覧】

2018年1月25日現在

学会名	日程	開催地
第53回 日本理学療法学会	2018年5月25日(金)～5月26日(土)	つくば国際会議場、他(茨城県)
第59回 日本心身医学会総会学術大会	2018年6月8日(金)	名古屋国際会議場
第55回 日本リハビリテーション医学会学術集会	2018年6月28日(木)7月1日(日)	福岡国際会議場、福岡サンパレス(福岡県)
第52回 日本作業療法学会	2018年9月7日(金)～9日(日)	名古屋国際会議場(愛知県)
第34回 日本義肢装具学会	2018年11月10日(土)、11日(日)	名古屋国際会議場(愛知県)
第11回 日本身体障害者補助犬学会	2018年10月6日(土)、7日(日)	成田空港(千葉県)
第53回 日本脊髄障害医学会	2018年11月22日(木)～23日(金)	ウインクあいち(愛知県)

(6) リニモとの協働

リニモ駅長に就任しているPR犬はリニモイベントなどに参加する。

(7) 成年企画

年間を通して成年にちなんだ企画を実行する。

9. 補助・助成申請

(1) 平成30年度事業

助成決定事業

① 全国生活協同組合連合会:200万円

全国労働者共済生活協同組合連合会:100万円

申請事業:身体障害者の自立と社会参加のための介助犬普及・啓発活動

～重度肢体不自由者が介助犬を伴って交通機関等を利用する事例集作り～

② 公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団(シンシア基金):20万円

申請事業:介助犬候補のパピー育成プログラム

申請中事業

① 日本郵便年賀寄附金:500万円

申請事業:介助犬希望者・利用者送迎のための訓練センターエレベーター更改事業

② 社会福祉法人愛知県共同募金会:37万円

申請事業:犬飼育関連物品購入事業

申請予定事業

① 中部ウォーカーソン:40 万円

申請事業:海外補助犬団体とのネットワーク構築のための海外渡航費・犬導入費用

② 愛知県:10 万円

申請事業:愛知県内における介助犬啓発事業

③ 長久手市:30 万円

申請事業:介助犬広報啓発事業

④ 長久手市ふるさと応援活動支援事業

申請事業、申請額は未定

(2)平成 31 年度事業

- ・介助犬総合訓練センターの施設改修や機器整備(PC)の為の申請
- ・海外補助犬団体とのネットワーク構築のための渡航費用や候補犬導入費用の申請
- ・介助犬希望者向け体験会・体験入所および介助犬使用者継続指導実施費用の申請

10. 総務管理・運営

(1) 寄付収入および賛助会員数増加施策の検討・実施

前年度に引き続き、安定した事業運営基盤の確立に向け、寄付収入および賛助会員数増加のためのファンドレイジング施策を検討、実施する。

(2)計画的な施設保守・営繕の検討・実施

介助犬総合訓練センターおよび保有車両等について、最適及び計画的な保守・営繕に努める。

介助犬総合訓練センター

- ・車いす用エレベーターの改修
- ・訓練室 5 の改修:ウェルピングルームの確保
- ・収納スペース確保のための倉庫導入、保有物品／資料の整理

(3) salesforce (新データベースシステム) の活用

支援者(会員・寄付者、ボランティア、その他関係各位)の情報をデータベースにて一元化し、支援者とのきめ細かく効果的なコミュニケーション施策の充実を図る。

(4)労働環境の整備

職員の働きがいと働きやすさの両立を目指し、労働環境の見直し、整備を行う。育児・介護などの状況に応じ、柔軟な働き方が出来る環境を整備する。

(5)ICT(情報通信技術)を活用した効率的な業務運営

2 拠点間の円滑な情報共有を図る。併せて、更にセキュリティの高い情報の保管・活用方法を検討し、運用する。